

『塊の』 ATP測定試薬[®] Ver2.1

KA2.1-10、KA2.1-50、KA2.1-100、KA2.1-1000



<p>概要</p>	<p>3D培養した細胞中のATP量を、ホタルルシフェラーゼ発光法により測定する試薬です。ATP量は、細胞生存性と相関性があるため、細胞増殖・毒性試験に使用することができます。Ver.2.1製品では、試薬の耐熱性および細胞溶解力を大幅に向上させました。</p>
<p>希望小売価格 (税別)</p>	<p>KA2.1-10 : 18,270円 KA2.1-50 : 47,880円 KA2.1-100 : 66,150円 KA2.1-1000 : 照会</p>
<p>製品構成</p>	<p>KA2.1-10 : 10 ml ×1 KA2.1-50 : 50 ml ×1 KA2.1-100 : 50 ml ×2 KA2.1-1000 : 50 ml ×20</p>
<p>保存条件</p>	<p>-80℃、遮光</p>

『塊の』ATP測定試薬® Ver2.1

メーカーコード

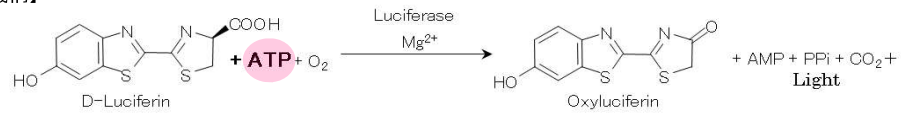
KA2.1-10, KA2.1-50

KA2.1-100, KA2.1-1000

東洋ビーネット株式会社 バイオプロダクツ部

【ホタル・ルシフェラーゼ発光反応機構】

発光量 (RLU) を
ルミノメーターで測定



本製品は、スフェロイド培養した細胞等、塊状の動物培養細胞からATPを抽出し、抽出したATP量をホタル・ルシフェラーゼ発光法により測定する試薬です。細胞内のATP量は、細胞生存性と相関関係があり、生細胞数の指標となるため、細胞増殖・毒性試験に用いることができます。従来品と比較して、細胞（塊状の細胞）の溶解性が大幅に向上しているため、より大きな細胞塊・より凝集力の強い細胞塊に対しても、溶解力不足を生じることがありません。また、培養プレートに試薬を添加するだけで測定可能なため、操作性にも優れています。

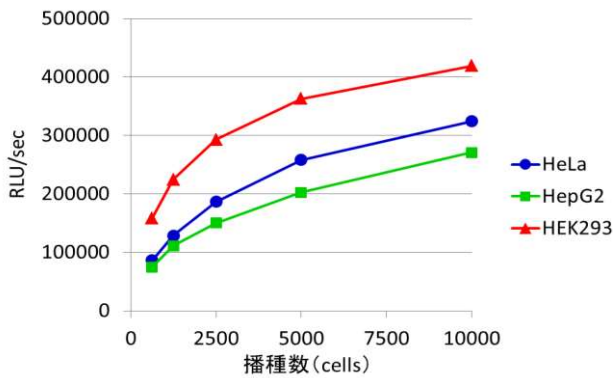


Fig.1 96wellプレート(U底)で培養したスフェロイドのATP測定
96wellプレート(U底)に、625、1250、2500、5000、10000 cells/well (100 μ l/well)となるよう細胞(HeLa、HepG2、HEK293)を播種し、37 $^{\circ}$ C、5% CO₂下で培養。3日後に試薬 100 μ lを添加し、発光量を測定した。
(※下のグラフは、各培養におけるキネティックデータを示す)

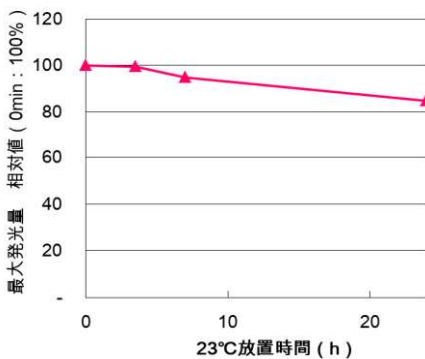
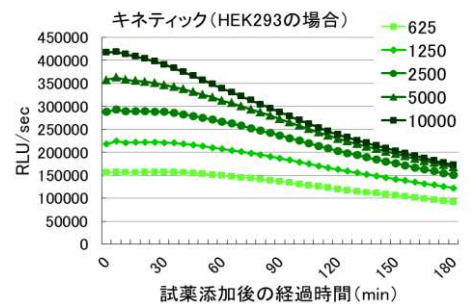
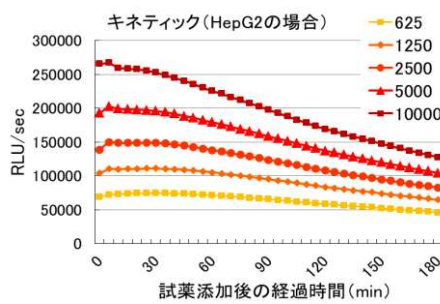
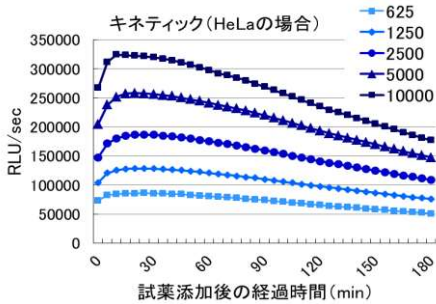


Fig.2 試薬の室温 (23 $^{\circ}$ C) 安定性

DMEM培地でATP溶液(1 \times 10⁻⁶M)を調製し、96wellプレートに100 μ lずつ分注。室温放置後の試薬を加え、発光量を測定(n=3)。

(※グラフは、室温放置前(0h)の最大発光量に対する相対値で表示)

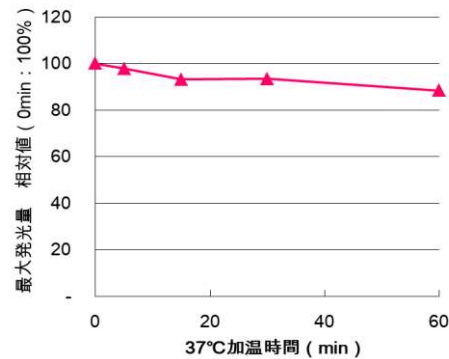


Fig.3 試薬の加温安定性 (37 $^{\circ}$ C耐性)

DMEM培地でATP溶液(1 \times 10⁻⁶M)を調製し、96wellプレートに100 μ lずつ分注。加温処理後の試薬を加え、発光量を測定(n=3)。

(※グラフは、加温処理前(0min)の最大発光量に対する相対値で表示)